

明るい部屋

映像学科
高山隆一

LA CHAMBRE CLAIRE

Department of Imaging Art
TAKAYAMA Ryuichi

制作意図

本作は2015年度重点的教育研究事業「短編映画集『学科ストーリーズ』シリーズの製作」にて採択を受け製作された短編映画である。各学科を舞台とし単に学科紹介に止まらず作品的に質の高いドラマ性を帯びた内容にて提示することが目的である。

また、プロフェッショナルな撮影現場の場合、技師、第一助手、第二助手といったそれぞれ役割分担を持った職位の差別化が存在している。しかし、普段の学生の実習の間ではその平等性により職位の上下関係の成立が困難な場合が存在する。本作品ではプロや卒業生、現役学生を交えることにより「良き上下関係」の成立を試みた。

本作の内容はコンクール入選を焦る契約期限が迫る助手と事故により留年してしまった新入生の師弟物語である。ここで作者は二点に着眼をして作品の制作を意図した。

まず第一は作者の写真の考え方である。

作者は主人公にこう言わせている。「写真は光と記憶を手に入れられる人類最高の発明。」

映像がアナログであれデジタルであれ光を捉え現実世界の視覚の再現を試みるものである。その点で言えば写真はその先駆的存在である。「光を捉える」ことのその科学的な効用は多大なものであったことには異論はないであろう。

と同時に写真は単なる現実再現の科学の道具だけではなく、それらを通して人間の感情を想起させるという点である。家族、恋人、友人の写真はそこに写っている人そして状況の想いを募らせることとなる。単純な現実再生の機械から想像を喚起させる道具という点で物心両面に多大な影響を与えた発明であることを意図している。

もう一点は、傍観者としての成長である。

本作品は主人公由依を無言で見つめる彩を配置している。由依の生き様を見ながら彩は何かを掴み取っていく。通常であれば彩の努力の表現を描くことが彩の成長物語として妥当であろう。今回は敢えて由依の行動を見つめることでの彩の成長という逆説的とも取れる方法論を試みた。由依の行動が間接的に彩の成長に繋がる静的な「スポ根」を描いてみた。

「明るい部屋」採録のナリナ
脚本・監督・・・高山隆一

由依・・・小山薫田
彩・・・三上彩智

○字幕
「KOUGEI 学科のリーダー」

○字幕
「神は云った。『光あれ。』すると光が出来た。
旧約聖書創世記第一章3節」

○写真学科制作センター

センター受付を訪ねに行く彩（19）。
受付内で事務仕事をする山口（25）。
同じく受付内で谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』の文庫本を読んでいる由依（28）。
受付に来る彩。
それに気づく山口と由依。
由依、文庫本を手放す。

○タイトル「明るい部屋」

由依（オム）「だから何で私なんですか」

○研究室

大崎（45）と由依が回かい合って座っている。
大崎「まあそういうことであの子もそれなりにぞ、あの事故のこと知ってるだろう。一年の留年くらいで戻って来れたのは奇蹟だ。それに大学も新しく試みとして期待してるんだよ。」
由依「それはわかりますけど、私だって後がないんです。もう今年で大学との契約切れるんですよ。賞獲らないと。それに第一、チコーターなんて、なにオックスフォードですか？」

○同 制作センター

写真コンクールのポスターを貼っている由依。
学生Aが由依に話しかける。
学生A「ねえ、由依姉、今度この企画で写真撮ることになったけど。」
A、企画書を由依に渡す。
読む由依。
由依「これなら少し広角系使ってみたら？ パース感が出れば意外と面白いかも。」
Aトハイスに囁きそこな学生A。
それを微笑ましく見ている由依。

○同 研究室

大崎「え？ お前、院バリエの修論だっじゃないか？」
由依、少し言葉に詰まって
由依「あれは映像学科がいつも喧嘩ふっかけてくるから。今度はバザンで返り報ちしようやる。しらりー

「えまではいけるから。」

○同 制作センター

シートをチエックしている由依。

学生B（20）「ちやこて来る。」

おもむくにノートを鞆から取り出し、ページをめくる。

そして読み上げる。

学生B「ねえ、由依姉、実はちや『写真におけるトキコメソナリーと物語性と距離』全然わかんないよ。」

由依姉「これ教えて。」

由依、学生のノートを奪い取り何かを書き出す。

それを眺めている学生B。

由依、学生にノートを返す。

学生Bノートを見る。

学生B「これ本の名前じゃん、読えじゃないの？」

由依「甘えるな。これだけだつて読えの80パーは教えてる。」

学生B「ええー」

微笑む由依。

○同 研究室

大崎「でもあいつ院始まって以来の出来だつて褒めてたよ。博士行かなかつたの残念かつた。」

由依「論文じゃ食えないんですよ。身体売らるる販ですか？」

大崎「お前ならいけるよ。」

由依「はあ、セクハラですか？」

（間）

由依「聞いてますよ。ハッセルブラッド。まだ箱からも出してないつて。」

大崎「へえ。」

由依「では。生徒のH5D10日間とスタジオ7日間。」

大崎「おいー。H5D5日とスタジオ3日。」

由依「H5D7日とスタジオ5日。これ以上はまけられません。」

大崎「わかつたよ。でも卒業終わつてからだよ。」

由依「あと、ファイルははしめますよ。時間の無駄ですから。」

大崎「・・・」

由依「(ポソソ) やつても意味ないから。」

○同 制作センター

カメラの説明書を見ながらぎこちなく扱う彩。

事務仕事をしている山口。

彩を見かねて教えに行こうとする山口。

山口の背後からそれを制する由依。

由依「いいから。あれは私の子だから。」

由依、彩に近づく。

液晶で被写体を見ている彩。

由依「被写体を見る時は絶対、フアインダー。フ口ならこれー生絶へから。」

○同 制作センター

ていねいにカメラの掃除をする彩。

○写真スタジオ前

スタジオの前まで歩いて来る彩。
戸口で立ち止まり大きな深呼吸をしてドアを開ける。

○写真スタジオ

由依、文庫本『陰翳礼讃』を読んでいる。
恐る恐るスタジオに入ってくる彩。
由依、文庫に目を向けたまま

由依「周回遅れの一年生だからタリボット賞で我慢して。そこまでは仕上げてあげる。」

× × ×

髪を縛る二人。

ロール紙を準備する二人。

露出計測を指導する由依とその指導を聞く彩。

ぎこちなく撮影をする彩。
それを眺めている由依。
おもむろに自分のカメラを持って一緒に撮影を始める。
驚く彩。

由依「大丈夫、タリボットはいつでも合わせるから。」
由依は手慣れた感じで、彩はぎこちなく撮影をする。
由依、モデルに向かって
由依「こっち目線お願いします。」
彩も負けじと
彩「こっちにもお願いします。」
由依、微笑む。

○同 制作センター

由依が白衣姿で立っている。
彩はテーブルの前に座っている。
テーブルには古びたフィルムカメラ。
フィルム。
文庫本『陰翳礼讃』。
由依「私はこれで光を手に入れた。写真は光と記憶を手に入れられる人類最高の発明。」
彩、文庫を手にしてページをめくる。
由依「そこの本は私の生涯の友。あんにあげる。」

○中庭

ぎこちなくカメラにフィルムを詰める彩。

○同 制作センター

コントラストのポスターをじっと眺める由依。

○同 中庭

戸惑いながらフィルムカメラで写真を取る彩。

○同 制作センター

携帯電話をかける由依。

○スタジオ

由依、彩、静流（１９）。

由依と静流が対峙している。

戸惑いながら双方を見ている彩。

由依「久しぶりだね、やっぱり綺麗ね。」

静流「由依姉の電話なら断れませんか。私なんかでいいんですか？」

由依「初めて会った時から決めてたから。最後の勝負はあなただつて。私は私を写せないからあなたを写すの。」

二人見つめ合う。

やがて由依が微笑み、

由依「楽しい女。」

笑みが消え真剣な表情の由依。

○校舎屋上

じり群の計測をしている彩。

その脇で腰を下ろして物思いに耽る由依。

やがて、手すりに回かいじり群を眺める。

それに気づき一緒にじり群を眺める彩。

○同 制作センター

コンテストのポスターを剥がす山口。

来年度のコンテストのポスターを貼る。

○じり群

○写真館スタジオ

写真を撮ってもらっている結花子（３８）と未来（みく・１５）。

身なりは道着。

二人を撮影している由依。

× × ×

カメラやフィルムを不思議そうに眺めている未来。

由依と結花子が少し離れた場所で話している。

結花子「変でしょ。（自分の身なりを見ながら）よそ行きはなんか嫌で。もつとぐぬの子と聞れるようになんです。再発して多分今度は無理。」

由依「いいんですか？」

結花子、微笑みながら

結花子「大丈夫、私とあの子、受け入れるだけの涙とハーゲンダッツはごちねしましたから。」

由依「でも・・・」

結花子「怖いですよ。でももっと怖いのは残されてしまったあなたの子。」

由依、未来のところに近づく。

由依「それはね、世界の光と記憶を手に入れられる人類最高の栄誉。そしてあなたを愛してくれた人の証
ね。」

○同 制作センター

カウンター前で学生4名がカメラを持って話している。

一人の学生がカウンター裏に向かって

学生し「ねえ、彩姉（そやねえ）、これってやって使いの？」

カウンターの裏から彩がやって来る。

カメラを手にとって

彩「これはねえ・・・」

学生とカメラについて談笑する。

机には彩と由依の写真。

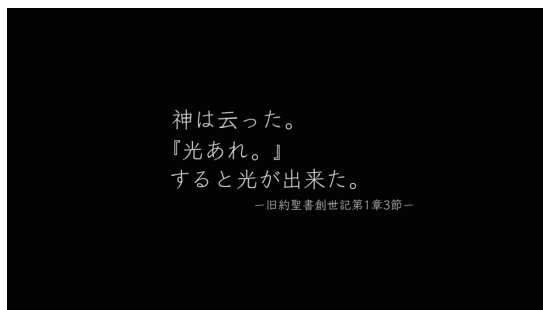
(15分)

ハロプロ作品

スチールカメラ



1



2



3



4



5



6



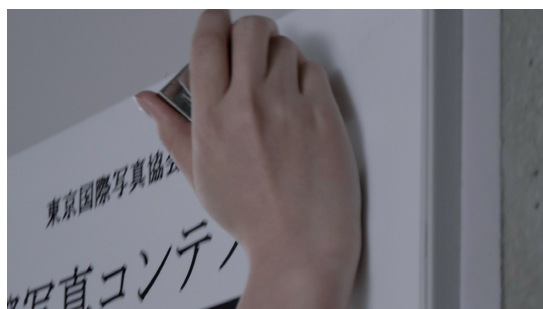
7



8



9



10



11



12



13



14



15



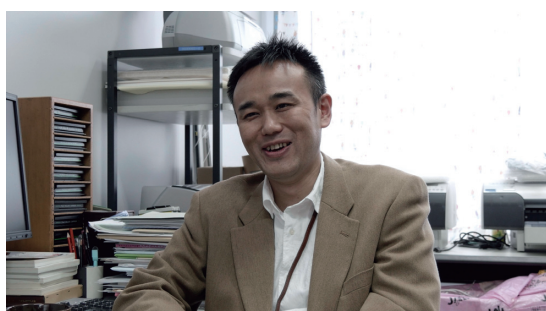
16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



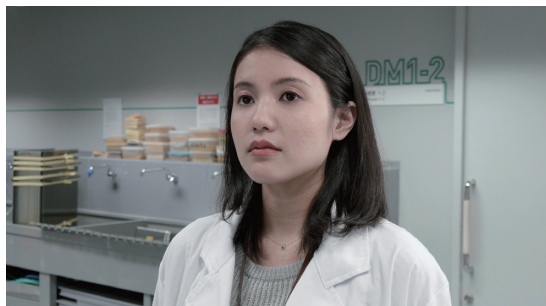
50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



71



72



73



74



75



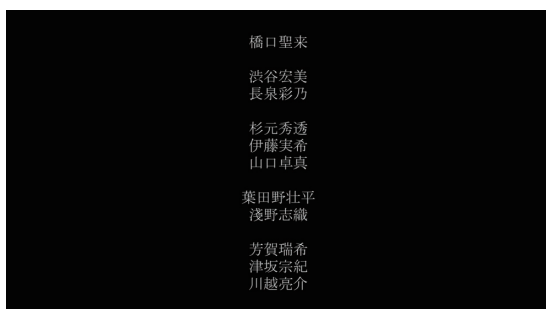
76



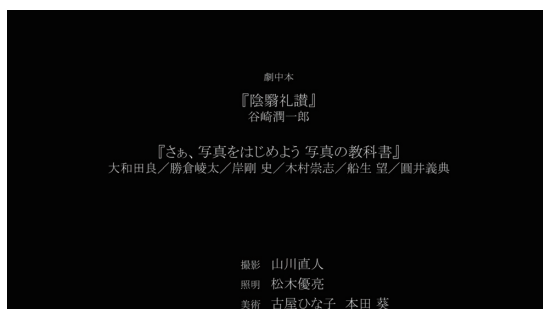
77



78



79



80

撮影 山川直人
照明 松本優亮
美術 古屋ひな子 本田 葵
録音・整音 光地拓郎
編集 小堀由起子
スクリプター 今野七香
ヘアメイク 桑本勝彦
衣裳 柳沢友宏
監督補 太田龍馬
制作 望月龍太

81

音楽 宇塚博之

エンディング曲
『アシタのアタシ』
作詞 白濱賢吾
作曲 宇塚博之
編曲 宇塚博之 鈴木直也
唄 板橋美里

助監督 三本松晃 松田 歩
撮影助手 星 智教
照明助手 安藤健太朗
録音・整音助手 増子大宙
美術助手 中村実緒
制作助手 五十嵐路実 望月うの

82

助監督 三本松晃 松田 歩
撮影助手 星 智教
照明助手 安藤健太朗
録音・整音助手 増子大宙
美術助手 中村実緒
制作助手 五十嵐路実 望月うの
劇中写真撮影 川島崇志
スチール 七咲友梨

協力
吉野弘章／吉田 成／上田耕一郎／圓井義典／川島崇志／高島圭史
篠田 優／土居原翔司／長田夏実／本間高大／小池莉加

83

監督・脚本 高山隆一

84

